

令和6年度第1回市民活動センター評価委員会 摘録

日 時：令和6年8月5日（月）午後1時30分～午後4時30分

場 所：京都市市民活動総合センター ミーティングルーム

出席者：

（委員、敬称略）東郷 寛（近畿大学経営学部准教授）＜委員長＞
城戸 英樹（立命館大学政策科学部教授）＜副委員長＞
杉原 恵（一般社団法人 my turn 代表理事）
鈴木 ちよ（市民公募委員）
裕井 大治（公認会計士）
森本 純代（一般財団法人藤野家住宅保存会理事）

（事務局）京都市文化市民局地域自治推進室

市民活動支援課長 小林 寛
市民活動支援係長 別所 隆男
担当 高山 玲子、板東 瑞帆

傍聴者：5名

取材者：なし

議 事：・ 令和5年度 いきいき市民活動センター事業の報告
・ 令和5年度 市民活動総合センター事業の報告

開催概要

1 開 会

2 議 事

6つのいきいき市民活動センター（以下「いきセン」という。）及び市民活動総合センター（以下「しみセン」という。）指定管理者が令和5年度に実施した事業についてプレゼンテーションを行い、事前に提出された事業報告書も踏まえ、委員から質疑を行った。

<吉祥院いきいき市民活動センター>

（東郷委員長）

地縁団体、自治会・町内会が高齢化しているところもあるが、そのあたりはセンターとして関わりがあるのか。

（吉祥院いきセン）

地域の方々との関わりは深い。高齢化している団体はたくさんあるので、手伝えることがあれば手伝ったりしている。

（東郷委員長）

人手が足りないから来てほしいということで手伝ったりしているのか。

（吉祥院いきセン）

そういう感じではないが、当法人の理事が各団体の長であつたりするので、手伝いをしたり

しており、そういう中で地縁団体の大体のことは把握している。

(東郷委員長)

地縁活動と市民活動支援の双方を繋ぎ合わせることが意識されている。

(森本委員)

南青少年活動センターとの共催のバリエーションが増え、しかも地元の方がパブリックビューイングに参加したり、有機的にいきセンが地元のハブとして事業をつなぐ機能を果たしている点で今年度、昨年度よりさらに充実していると思った、いい取組だと思っている。

昨年も南青少年活動センターとやっておられたが、地元の少年補導委員会など、委員から、こんなことを知りたいから別の分野別センターを紹介してほしいと相談を受けたりしないか。

(吉祥院いきセン)

今のところ相談はないが、そんなことも受け付けていきたいと思っている。色んな声を聞かせていただいて、繋いでいければと思う。

(森本委員)

こういう機会が認知されて、別の分野別センターの特技を生かしながら、センターのポテンシャルを使って地域の人に届けていければよいと思う。バリエーションが増えていくといいなと思った。

(吉祥院いきセン)

今後の課題にさせていただく。

(鈴木委員)

昨年度の評価委員会で話題になっていた六斎念仏について、より一層充実されて、アーカイブ化も進んでおり、今年NHKなどで大々的に放映されていて、それを見た地元の方が参加していくという好循環が生まれていくと期待している。貸館の利用実績に関しても、新しい団体のスタートアップ支援も丁寧になされていて新規に利用されたりと、費用が上がった中で素晴らしい利用実績を出された。鏡の設置も若い方の新規の利用につながっていると思う。

和室と料理室の利用がなかなか難しい。今後、料理室の改善も考えていると記載があるが、具体的にはどういうことを考えているのか。

(吉祥院いきセン)

つい先日、料理室にオーブンを新しく設置した。オーブンを使いたいという団体の声も何件かいただいており、これから利用促進につながればと思っている。和室の方はお年寄りの方でも椅子を使いたいという方が多いので、畳の上で使える椅子の購入を検討中。習字教室や絵を描かれる方も使われるので 撥水カーペットなどの購入を検討中である。

(鈴木委員)

料理室がある場所が限られており、強みでもある。オーブンのことも広報されたら、使いたい潜在層もいると思うので、届くと使ってもらえると思う。ぜひ広報を頑張してほしい。

和室の良さもありつつ、それ以外でも使えるような可能性の高いアイテムが色々プラスされていくといい循環が生まれると思う。引き続きよろしくお願いします。

(杉原委員)

スタートアップの活性化支援事業は素晴らしいと思う。地域によると思うが、何かを提供し

たい人はたくさんいると思う。そういうことでセグメントされているのか、誰でも何回でもということで応募されているのか、利用される方はどのような接点で来られているのか。

(吉祥院いきセン)

何かを「やりたい」という方ばかりではないため、潜在的な方を引き出すのが自分たちの働きだと思っている。

来館者との何気ない日常会話から色んな活動につながるが多い。こういうことがやりたいけどできないかなという声を拾って、実はうちでできますよということから打合せにつながっていくことが多い。リトミックやフラダンスなどもそうだった。コミュニケーションが大事だと痛感している。

<上鳥羽北部いきいき市民活動センター>

(東郷委員長)

環境活動を中心に、多くの子どもや地元の方が参加できる活動を熱心にされている。面白いと思ったのは、落書きを消すという活動。今色々なところで公共施設にスプレーで落書きされている。今のところはキレイなままか。

(上鳥羽北部いきセン)

新しい落書きがあったということは特に聞いていない。自治会の方の活動をお手伝いする形をとっている、毎年1回は落書き消しの活動をされているが、気が付いたら橋の下などで大きく書かれているということもある。

(東郷委員長)

単に落書きを消して元の状態に戻すのではなく、逆に描きたい方にアートとして描いてもらった方がいいのではないか。

(上鳥羽北部いきセン)

自治会の方に提案してみようと思う。

(城戸副委員長)

貸館の利用件数も増加傾向にあるとのことだったが、新しい方が入ってきておられるのか、継続利用の方が増えているのか。

(上鳥羽北部いきセン)

継続利用の方も活動をお休みされていた方が戻ってきたりとか、全く新規の利用者の方も何組かおられる（こどもと一緒に手作りワークショップやダンス系など）。

(城戸副委員長)

話を聞いていると、だんだんネットワークが広がってきていて、新しい方も来られるし、継続の方も広がっている。もう一步広がっていくと、それが好循環になっていくように思うので、頑張ってもらいたい。

(鈴木委員)

上鳥羽北部いきセンは、以前からエコとか環境活動などを熱心にされていたり、ラジオ体操

など市民の方の自主的にやりたい気持ちを大切にされている。

新たにお日様カフェ事業の中で大人のヨルカイを新たな時間帯に実施されたということだが、実施してみての手応えや今後継続するかどうかを教えてください。

(上鳥羽北部いきセン)

これまでの事業は、土日や平日午前中の時間帯に行くことが多かったが、新たな人たちに注目してもらうために、今まで設定していなかった時間帯（金曜の夜6：30～8：00）に事業を設定した。

どんな方が集まるか分からなかったが、参加者の年齢層は、自分たちより少し上くらいの世代で、高齢者までいかないくらいの方（50～60代の方）。自分たちがやりたいと考えたことを一緒にやっている。最近ブームになっているのは黒い紙の型抜き（切り絵）である。皆さん集中してやっておられる。

(鈴木委員)

時間帯、曜日の制約でこれまで参加できなかった方が、新しい機会をいただくことで、思い切って参加してみようということが出てくると思う。職員のご負担のない範囲で広げてもらって、新しい方が参加するという新しい循環が生まれることを期待したい。

(杉原委員)

各事業でボランティアの力が大きく発揮されている。ボランティアの年代層と、活動された後にどんな感想をお持ちだったかを質問したい。こうした活動は、持続させていくことが課題だと感じている。本人たちのやりがいがあれば、継続していけると予想するが、これだけの人たちが協力してくださる企画は魅力的だと思う。秘訣を教えてください。

(上鳥羽北部いきセン)

ボランティアの年代は50～70代の方が多い。色々関わっていただいて、楽しかったという感想だけではなく、職員では出ないような改善のための厳しめの意見が出ることもあり、そうしたことが有難い。

スタッフの思いとしては、もっと下の年代の方にも参加していただいたら、違う意見を出してもらって、別の方向に事業も進んでいくのかなと思うが、皆さん積極的だ。一人の方が色々な事業のボランティアとして参加してくださってたりもして、良い関係ができていると思う。今後も大切にしていきたい。

(杉原委員)

一方でもう少し若い世代の参加も望まれているということですね。

＜上鳥羽南部いきいき市民活動センター＞

(東郷委員長)

従来の講座提供型から市民活動支援型の運営に変えていくのかという課題を視野に入れながら見直していかれる中で、事業内容が前回に比べて変わってきたと思う。地区（団地など）に住んでいる方で、生活で困った点や悩み事を活動に反映していくとか、地縁活動ができていないが必要な活動について、どのように考えているのか。

(上鳥羽南部いきセン)

近くに団地があるが、全くセンターとの交流がない。たまに古くからお住まいの方が年末にお孫さんが帰ってきて長机を貸してほしいなど相談があるくらいで、ほぼ接点がなく、正直どうしたらいいかと思っている。

(東郷委員長)

元々センターの近くには企業関連施設が多くて住宅が少ない。

(上鳥羽南部いきセン)

以前、センターの利用を促すために、戸別ポスティングをしたこともあるが、反響がなかった。こういう活動をしている施設があるということを知らせるところから始めないといけないと考えている。

(東郷委員長)

社協や地域福祉センターとの連携ということでもいいと思うが、どうか。

(上鳥羽南部いきセン)

上鳥羽北部いきセンは自治連合会としっかり関係しているが、上鳥羽南部いきセンはかなり疎遠になっている状況である。

(東郷委員長)

そういった状況をいかに活性化していくのが課題だと思うが。

(上鳥羽南部いきセン)

自治連合会との関係がないので、そこから構築していく。

(東郷委員長)

それをやっていただいたら情報も入るし、良いと思う。

(上鳥羽南部いきセン)

今年度、市民活動されている方から、一緒にやらないかと声をいただいているので、そこをとっかかりにして、少しでも広げていけたらと思う。

(前センター長) 社協との連携については、昨年度までやっていた健康体操に関して、地域包括センター、社協と話して健康体操を地域にどう広げていったらいいかという話し合いを進めたことはある。2～3回ほど話し合いをしたが、私が病気をして止まってしまった。途中切れになってしまったのが現状であるが、とっかかり、土壌はあるので、再度アプローチしたい。課題として考えたい。

(鈴木委員)

前回、厳しいことを言ってしまったが、講座型の一方向を双方向にすることについて、かなり努力されているということがあるし、多様な参加者がいるようである。

市民からの意見も丁寧にくみ取って次につなげているということ。情報発信が足りないという自己反省をされていたが、かなり活用されているようである。これだけ写真を撮っているので、若い世代に伝えるならば、LINE、X、instagram かどうか。他のセンターではinstagram 経由で若い方がつながっている事例もある。一度利用があれば、どういう内容だとつながりやすいか聞くことができる。

第2・3会議室の利用、夜間・日曜の利用が少ないことの改善策はどうか。

(上鳥羽南部いきセン)

場所としては、10人くらいが会議できる場所であるが、何より交通の便が悪い。過去に企

業が研修で使う予定があったが、結局、遠いということでだめになったこともある。センターの特徴として、大きな音を出しても大丈夫ということがあり、太鼓、サックスの練習など音楽関係の方がよく使われている。そうした方に使えることをどんどん広報していこうかと思っている。

(鈴木委員)

京都市は音大もあるし、音楽サークルも多い。どこか一つとつながれば、そこから口コミでつながることがあると思う。

(上鳥羽南部いきセン)

やはり第1会議室が人気。ドラムなどの響きが違うらしい。

(鈴木委員)

狭い部屋の良さを打ち出せたら、メリットを見出せたら利用が増えると思う。

(上鳥羽南部いきセン)

とりあえず、空いているということを、使いたい人にもっとお知らせしていきたい。

<醍醐いきいき市民活動センター>

(東郷委員長)

ここ数年、若い人、大学生を巻き込みながら、老若男女の新しい活動も含め促進されており、良いことだと思っている。利用状況について、一昨年から利用料金制となって、ある程度減少は予想されていたと思うが、それ以上に利用者が減少している。市民活動が結構活性化しているので、貸館利用につなげることができると思うが、料金はいくらなのか。

(醍醐いきセン)

会議室・和室が600円、集会室800円。新しいサークルなど増えたところもあるが、それ以上に減る率が多い。何回かお伝えしているが、無料で利用できるところが周りにたくさんあり、そちらに流れていったり、また、センターの利用者で車をコインパーキングに停めていた方がいたが、これまで敷地内に車を停めさせていた地域体育館が近隣住民からの苦情を受け、敷地内に車を停めさせなくなったため、地域体育館利用者のコインパーキングの利用が増え、センターの利用者がパーキングを利用しにくくなり、結果としてセンターが使いにくくなったと言われている。複合的な要因があると思う。

(東郷委員長)

無料の施設ではできないところをアピールしていくしかないと思う。

(醍醐いきセン)

周りの民家に響くような位置関係ではないので、壁の方を向いてやってもらうなどして、音楽関係（吹奏楽など）、トランペットもOKにしている。他のいきセンがいっぱいでも、いつ来られてもどこかの部屋が空いていますという広報を行っている。

(鈴木委員)

市民の皆さんがやりたいことを発表する場を丁寧にくみ取って実現されているなという印象。貸館については厳しい状況もあるが、老若男女、皆さんが参加できる場所になっていると思っ

た。センターで待ちの姿勢だけではなく、10年ぶりに外部の商業施設でイベントをやったり、カフェに出張したり、場所を変えてアウトリーチ型で色々検討されている姿勢が素晴らしいなと思う。

学生アルバイトがファシリテーターとして事業に入ったり、必ずしも近隣ではない大学生の皆さんも巻き込んで事業をしている印象が強く、接点、入口というか、どういう経緯で参画される機会を持たれているのかを聞きたい。

(醍醐いきセン)

色々な大学生の方がフィールドワーク先ということで来ていただいている。醍醐地域には、大学がなくて、逆にしがらみがなく入りやすい。また、我々も大学に出向いて、まちづくりの話をする機会がある。その時にこういう事業をするのでよかったら来てくれないかと声を掛け、1人でも2人でも来てくれたら必ず受け入れ、その人たちがやりたいような形になるように心掛けている。

京都市のまちづくりアドバイザーが昔から関わってくれていて、醍醐支所とつないでくれたりする関係性が構築されている。正副のまちづくりアドバイザーは2人とも大学で講座を持っているので、そこから次々と紹介してもらおうという関係もある。

(鈴木委員)

京都は大学のまちである。センターの運営には若い世代の取り込みが重要になる。大学という資産を大いにいかし、学生自身も通学している縁のあるまちと何かしらのプロジェクトができるというのはいい思い出になるし、その後の新社会人としての一歩にも非常に役に立つ。お互いにとって良い関係になっている。

まちづくりアドバイザーが講座を持っていることを生かすほかにも、醍醐いきセンが大学に出向いて話をされているということは、積極的な姿勢で、そこまでしてもらえると学生もそういういきセンもあるのだと分かるし、学生のやりたいことを実現する機会づくりになっていることも素晴らしいと思う。

(森本委員)

外に出て行って相談を聞いてみる、ふらっと相談カフェ事業はすごく良いと思う。既に醍醐いきセンを知っている方達以外の方と出会っていくのはすごく大事だと思う。1年間ほぼ毎月されているのか。

(醍醐いきセン)

何かと被らない限りは毎月している。

(森本委員)

今は1箇所だけだが、もしご縁があれば、出会いがありそうな色々な場所で事業の展開があればより良いのではという印象を受けた。先ほど音楽とか部屋の使い方ということでこういう需要を持っている人に使ってもらえそうだという話があったが、そういう需要を持っておられる人に知ってもらえるように持っていけると良いと思った。

あと、大感謝祭は1年間センターと関わった人が集うということが面白いと思う。それぞれやっている人は、自分たちの活動を一生懸命にやっているが、自分たち以外のグループがやっていることを知って、団体同士でお互いに刺激を与え合うという、そういう取組が素敵だなと思った。

(東郷委員長)

交流人口を重視した事業を熱心にされているので、今後も継続してほしい。

<伏見いきいき市民活動センター>

(東郷委員長)

職員の体制、人材育成について伺いたい。活発な支援をされているが、職員の育成というか、次のキャリアを考えている職員もいると思うが、職員の引継ぎや、職員が長期間働けるよう採用の段階で工夫していることがあれば教えてほしい。

(伏見いきセン)

スタッフの育成に関しては、公共施設運営の窓口業務があるということと、まちづくり・活動団体のサポートの両方の軸があってこそいきいき市民活動センターであるということを採用の段階からお伝えている。

最近、まちづくりや、地域の方と出会えるところだけに重きを置いて入ってこられる方もいるが、我々はあくまで公共施設であってこそそのまちづくり活動。地域の方の信頼があってはじめてまちづくりの活動できているという部分もある。そうした両輪があるということを理解いただける方と働く仲間になりたいと考えている。

事業も、基本的に全てのスタッフに事業を1つ担当してもらっているが、日々の事業の困りごとなどを共有しながら、自分のスキルアップを図ってもらう。

学生スタッフは、自分の事業だけではなく、チームとして動いている以上、マネジメントができるかどうか、これからできるようになっていきたいかということも含めて、一緒に実践しながら振り返りながらというかたちで、現場としては人材育成として行っている。

(東郷委員長)

チームごとに分かれているのか。

(伏見いきセン)

月1回定例会議をスタッフ間でやっている。節目のタイミング、新しいスタッフが来たりしたら懇親会的なこともやっている。会議もなるべく皆で、事業、管理運営の中で課題を出し合いディスカッションするような形にし、事業や管理面を見るという視点も養っている。

(森本委員)

多岐にわたってきめ細やかに事業を実施されている。市民活動団体や地域団体の伴走支援プロジェクトについて、大変だろうと想像するが、伴走している相手団体の今の状況に合うサポートとして、どのようなことが大切かということを見極めてサポートすることが大事だと思う。背伸びしすぎて疲れることがないように。ただ、前にどう進んでいくかという具体的な道筋も見えるようにすることも大事だと思う。

その中で、説明いただいたプレーパークの団体の資金調達で、専門の方を招いたという話があったが、その団体にマンツーマンで専門の方を付けた密度の高いものなのか、広く他の方も参加してもいいよと裾野を広げたという形のどちらなのか。

(伏見いきセン)

マンツーマンという感じである。意欲があったので、密度のある時間にしたいと思い、1対

1でさせていただいた。

(森本委員)

2団体というのは応募があつて選んだのか。

(伏見いきセン)

この年は2団体の応募しかなかったのもそのまま受け付けた。

(森本委員)

自分たちは頑張りたいが、どう頑張ったらいいかということ、今の自分たちにふさわしいものをコーディネートしてもらえるのは、とても心強いと思う。1年ということであるが、サポート終了後も長い目で発展していける姿を見ていくことができればいいと思った。

(鈴木委員)

多様な世代に向けて細かな目配り気配りをされている事業ですばらしいと思った。新しいチャンスを生み出す支援プロジェクトでシニアの居場所づくりや、地蔵盆のサポートなど多岐にわたる支援を10件されている。12件のうち2件がNGになった理由とは。

(伏見いきセン)

団体と日程が合わなかったためである。仮の候補日も出したが、日程が合わなかった。

(鈴木委員)

応募される方々については、なるべく応えようと擦り合わせをして支援していることが分かった。

<久世いきいき市民活動センター>

(東郷委員長)

昨年とは異なり、まちづくりアドバイザーと一緒に活動しながら、貸館利用収入を増やす努力をしている。来年度に次期指定管理の公募が行われるが、施設管理のほか市民活動支援も視野に入れているのか。

(久世いきセン)

近々、いきセンと合同でやる話など、もっと、こまめに連絡を取っていこうと話している。

(東郷委員長)

今後そういった事業を組み立てていきたいということか。

(久世いきセン)

貸館にも力を入れていきたいので、より使いやすいように、他の同種の施設にチラシを置かせてもらったりとか、中学校・小学校の先生に何かの際にセンターを利用していただけるよう相談に行ったり、利用促進をしている。

<市民活動総合センター>

(東郷委員長)

全ての項目においてしっかりやられている。いい状態で続けていただいている。他方で、外に出ていく（アウトリーチ）というのは予算的に難しいのか。

(しみセン)

ここにいなければいけない人員の確保ということもあるし、外に出ていく労力の問題もある。いつ相談があっても対応できる体制も必要。そこに注力していくということは現状では難しいと思っている。ただ、設立を考えておりメンバーを集めるので出張講座に来てほしいといった要望などには出向いているし、その場で相談に応じるといったことはしている。

(東郷委員長)

予算の制約の中でできる範囲をやられているということは分かった。

(鈴木委員)

市縁堂について、1日イベント型から、前回試行的に伴走型のプログラムに変更され、今回本格的に実施されたということで、1団体の寄付額は最高になっていたり、伴走型にした成果が出ていたと思った。テーマを決めることによって、新しい連携や相乗効果が生まれているということ。5団体エントリーされて、2団体が完走できなかった理由、改善点、考察を発見されていたら教えていただきたい。

(しみセン)

5団体のエントリーがあって、辞退した2団体のうち、1団体はエントリーしてすぐにお断りがあった。理由としては、日程的なこと、会議の頻度や宿題を出したが無理そうだったということだった。もう1団体は自分たちの描いていた活動とイメージが違ったので辞退ということだった。

(鈴木委員)

ミスマッチを防ぐために、応募に当たってもう少し加味できる部分があるのではと思う。残念なことであるので、お互いのために入口の時点でお互いの求めるところを擦り合わせができるのであればと思う。今後に期待したいと思う。

(杉原委員)

交流連携のところで、しみセン20周年記念事業のイベント、コロナを経て団体同士のつながりというものをもう一度一からセッティングして間を取り持つというのは価値があると思う。今後もこのような団体の間をつないでいくということや新しいアウトプットを生み出す支援を想定されているのかということと、成果として記載されている「本事業をきっかけとして参加団体1組の事業連携と団体を越えたU35世代のネットワークづくりが始まろうとしている」の内容を差支えない範囲で教えていただきたい。

(しみセン)

今後の展開だが、この20周年の取組をしたことと、市縁堂の「広がるサロン」での団体同士の交流などを踏まえ、新しく関わりたいと思っている方が、コロナの後にいるかなという手応えを持った。どれくらいできるか分からないが、こういった場をまた持っていくといいのかもしれないということをスタッフ間で話している。

参加団体の事業連携についてだが、発達障害のある子供の支援をしている団体と、障害のある人が日常生活で運動をサポートする自助具を作っている団体があり、そこで作っているツールの中で発達障害のある子に役に立つものがあるということで連携を始められているということ伺っている。

U35は、20周年のときは若い方が来てくださって、つなげたり紹介したりしながら、コアになりそうな団体に声を掛けたり、ファシリテートした。U35の世代のネットワークについては、1～2箇月に1回の頻度で会合、ネットワークづくりをしている。団体が使える補助金など情報を提供したり、事業化の提案・相談に乗らせていただいている。

(以上)